



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年8月10日

上場会社名 株式会社デュオシステムズ 上場取引所 東
 コード番号 3742 URL <http://www.duo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 恩田 饒
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 橋本俊明 TEL (03) 5319-3668
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の業績(平成22年4月1日～平成22年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	29	—	△59	—	△63	—	△64	—
22年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	△988 92	—
22年3月期第1四半期	—	—

(注) 前年同四半期は四半期連結財務諸表を作成しておりましたので、前年同四半期数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	256	—	46	—	17.7	695	39
22年3月期	316	—	110	—	34.8	1,684	31

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 45百万円 22年3月期 109百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	0 00	—	0 00	0 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	80	—	△144	—	△152	—	△153	—	△2,343 64
通期	610	114.8	26	—	10	—	7	—	107 23

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は【添付資料】P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	65,283株	22年3月期	65,283株
----------	---------	--------	---------

② 期末自己株式数

23年3月期1Q	一株	22年3月期	一株
----------	----	--------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期1Q	65,283株	22年3月期1Q	38,011株
----------	---------	----------	---------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 継続企業の前提に関する注記	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
4. 参考資料	9
(1) 前年同四半期連結損益計算書	
(2) 前年同四半期連結キャッシュ・フロー計算書	

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間におけるわが国経済は、政府による緊急経済対策の効果などから、一部で回復の兆しが見られるものの、依然としてデフレ進行や深刻な雇用情勢などへの不安が残り、景気の回復は力強さを欠いたまま推移いたしました。

当業界におきましては、中央省庁、自治体、独立行政法人などにおいて、「ITは社会における改革や価値創造のエンジン」としての期待があることから、「業務・システム最適化ソリューション事業」には底堅い需要がありますが、不透明感が続く経済環境の下で、公共部門・民間企業の情報化投資抑制傾向が継続しており、経営環境は依然として厳しいものとなりました。

ただ、IT業界は変革期にあり、それを象徴する「クラウドコンピューティング」に対しては、官民それぞれの取り組みが、今後、急速に高まると考えます。

このような状況のもと、当社は、早期に東京・関西の2拠点体制を敷き、人員の確保も図りました。サービスメニューの拡充と事業の拡大を図り、公共分野・民間分野共に受注・販売活動を積極的に推進いたしました。

しかしながら、当第1四半期は、前事業年度に引き続き、中央省庁、自治体、独立行政法人などからの受注において、従来は競合他社と認識していなかった民間分野のコンサルティング企業の公共分野への進出による競争の激化と、最低価格入札制度運用の拡大に伴い、当初受注を見込んでいた案件の失注や、見込み額を下回る額の案件が増加いたしました。また、一部案件が第2四半期会計期間以降にずれ込みました。

この結果、当第1四半期会計期間の業績は、売上高29百万円、営業損失59百万円となりました。営業外費用として支払利息を4百万円計上したことなどにより、経常損失は63百万円となり、四半期純損失は64百万円となりました。

なお、前第2四半期会計期間まで四半期連結財務諸表を作成していたため、前年同四半期比は記載しておりません。

(2) 財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末の資産の部は、256百万円(前事業年度末比59百万円減少)となりました。

これは主に、現金及び預金が40百万円、仕掛品が68百万円それぞれ増加したものの、売掛金が166百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債の部は、209百万円(前事業年度末比4百万円増加)となりました。

これは主に、未払金が11百万円減少したものの、未払費用が19百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産合計は、46百万円(前事業年度末比64百万円減少)となりました。

これは主に、四半期純損失64百万円の計上に伴う利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

現時点における第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成22年5月14日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況
その他会社の経営に重要な影響を及ぼす事象(重要事象等)が存在しております。

これは、前事業年度に引き続き当第1四半期累計期間においても営業損失を計上していることによる
ものであります。

当該状況を解消すべく、営業方針の抜本的な見直しを行い、サービスメニューの拡充と業務・システム
最適化サービスの更なる拡充を図ってまいります。

収益面については、従来の中央省庁、自治体、独立行政法人など向けのコンサルティング案件の受注
拡大に注力していくと同時に、民間企業へのコンサルティング業務の進出を一段と加速していきたいと
考えております。

また、コンサルティング業務とシナジー効果の見込める新規事業にも積極的に進出していく計画を立
てており、具体的には、仮想基盤構築事業、システム開発、IT関連の物販、技術者の派遣業務、アウト
ソーシング事業などがあります。民間のコンサルティング業務では、「IT顧問」業務を開始し、実績も
あがってきています。

さらには、中央省庁より、「自治体クラウド開発実証事業のPMO」を受託しており、この分野を重要
な戦略分野として注力してまいります。

コスト面では、役職員の報酬、給与のさらなる減額および契約上の経費などを含む経費の削減など、
より一層の企業のスリム化を行い、安定的な黒字体質への転換を図ってまいります。

財務面においては、当社の主要顧客の公共機関に対する売掛金の現金化が翌年度の4月に集中する傾
向がありますが、これを早期に回収する努力を継続することと、借入れ及び第三者割当増資等による資
金調達を行うことによって、今後も引き続き安定した財務体質への転換を図ってまいります。

しかし、これらの対応策を進めている途上であるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不
確実性が認められます。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	87,154	46,367
売掛金	27,151	194,093
仕掛品	72,851	4,594
その他	6,368	7,875
流動資産合計	193,525	252,930
固定資産		
有形固定資産	15,863	16,566
無形固定資産	1,107	1,178
投資その他の資産		
差入保証金	27,221	27,221
その他	18,447	18,177
投資その他の資産合計	45,668	45,398
固定資産合計	62,640	63,143
資産合計	256,165	316,074
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,740	—
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払金	121,941	133,393
未払費用	58,031	38,448
未払法人税等	1,213	3,998
その他	4,002	9,793
流動負債合計	209,930	205,634
負債合計	209,930	205,634
純資産の部		
株主資本		
資本金	805,068	805,068
資本剰余金	74,998	74,998
利益剰余金	△834,668	△770,109
株主資本合計	45,397	109,956
新株予約権	838	483
純資産合計	46,235	110,440
負債純資産合計	256,165	316,074

(2) 四半期損益計算書

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	29,078
売上原価	25,491
売上総利益	3,586
販売費及び一般管理費	63,392
営業損失(△)	△59,806
営業外収益	
雑収入	47
営業外収益合計	47
営業外費用	
支払利息	4,064
社債利息	36
その他	90
営業外費用合計	4,191
経常損失(△)	△63,949
税引前四半期純損失(△)	△63,949
法人税、住民税及び事業税	610
法人税等合計	610
四半期純損失(△)	△64,559

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失(△)	△63,949
減価償却費	773
賞与引当金の増減額(△は減少)	△6,115
支払利息	4,064
売上債権の増減額(△は増加)	166,941
たな卸資産の増減額(△は増加)	△68,256
その他	10,076
小計	43,534
法人税等の支払額	△2,440
営業活動によるキャッシュ・フロー	41,094
投資活動によるキャッシュ・フロー	
保険積立金の積立による支出	△307
投資活動によるキャッシュ・フロー	△307
財務活動によるキャッシュ・フロー	
財務活動によるキャッシュ・フロー	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	40,786
現金及び現金同等物の期首残高	46,367
現金及び現金同等物の四半期末残高	87,154

(4) 継続企業の前提に関する注記

当社は、前事業年度に引き続き、当第1四半期累計期間においても59,806千円の営業損失を計上しております。

当社は、当該状況を解消すべく、営業方針の抜本的な見直しを行い、サービスメニューの拡充と業務・システム最適化サービスの更なる拡充を図ってまいります。

収益面については、従来の中央省庁、自治体、独立行政法人など向けのコンサルティング案件の受注拡大に注力していくと同時に、民間企業へのコンサルティング業務の進出を一段と加速していきたいと考えております。

また、コンサルティング業務とシナジー効果の見込める新規事業にも積極的に進出していく計画を立てており、具体的には、仮想基盤構築事業、システム開発、IT関連の物販、技術者の派遣業務、アウトソーシング事業などがあります。民間のコンサルティング業務では、「IT顧問」業務を開始し、実績もあがってきています。

さらには、中央省庁より、「自治体クラウド開発実証事業のPMO」を受託しており、この分野を重要な戦略分野として注力してまいります。

コスト面では、役職員の報酬、給与のさらなる減額および契約上の経費などを含む経費の削減など、より一層の企業のスリム化を行い、安定的な黒字体質への転換を図ってまいります。

財務面においては、当社の主要顧客の公共機関に対する売掛金の現金化が翌年度の4月に集中する傾向がありますが、これを早期に回収する努力を継続することと、借入れ及び第三者割当増資等による資金調達を行うことによって、今後も引き続き安定した財務体質への転換を図ってまいります。

しかし、これらの対応策を進めている途上であるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を財務諸表に反映しておりません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
前事業年度末残高	805,068	74,998	△770,109	109,956
当第1四半期会計期間末までの 変動額				
四半期純損失(△)	—	—	△64,559	△64,559
当第1四半期会計期間末までの 変動額合計	—	—	△64,559	△64,559
当第1四半期会計期間末残高	805,068	74,998	△834,668	45,397

4. 参考資料

(1) 前年同四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	22,247
売上原価	21,767
売上総利益	479
販売費及び一般管理費	76,802
営業損失(△)	△76,322
営業外費用	
支払利息	4,855
その他	166
営業外費用合計	5,022
経常損失(△)	△81,344
税金等調整前四半期純損失(△)	△81,344
法人税、住民税及び事業税	691
法人税等合計	691
四半期純損失(△)	△82,036

(2) 前年同四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△81,344
減価償却費	933
賞与引当金の増減額(△は減少)	△11,508
支払利息	4,855
売上債権の増減額(△は増加)	274,817
たな卸資産の増減額(△は増加)	△37,297
未収入金の増減額(△は増加)	2,455
前払費用の増減額(△は増加)	176
未払金の増減額(△は減少)	△27,482
未払費用の増減額(△は減少)	28,059
未払又は未収消費税等の増減額	△8,703
その他	974
小計	145,935
利息の支払額	△743
法人税等の支払額	△4,349
営業活動によるキャッシュ・フロー	140,841
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△880
差入保証金の回収による収入	140
差入保証金の差入による支出	△300
保険積立金の積立による支出	△568
その他	△300
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,909
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	△105,213
財務活動によるキャッシュ・フロー	△105,213
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	33,719
現金及び現金同等物の期首残高	21,556
現金及び現金同等物の四半期末残高	55,276